



# LGBT報道ガイドライン

## 性的指向・性自認の視点から

近年、性的マイノリティについての報道が増え、差別や偏見をなくす大きな力になっています。一方で、適切でない取材や表現により、当事者が傷つけられてしまうこともあります。そのような事例に関する相談を受けてきた LGBT 法連合会は、記者や当事者の意見を参考に、報道ガイドラインを策定しました。このガイドラインが記者や当事者が相互に理解を深め、報道を通じて性の多様性が尊重される社会を実現する一助となることを願っています。

※この簡易版は「LGBT 報道ガイドライン」の「取材をする／される際のチェックリスト」を抜粋しています。



## 取材を「する」際のチェックリスト（記者向け）

### 1 LGBT や性の多様性に関する基礎知識を身につけましょう

- LGBT や性の多様性に関する基礎知識を身につけておきましょう。本編の「LGBT 基礎知識」を参考にしてください。
- 自分の性のあり方を基準にしないようにしましょう。例えば「(LGBT ではない) ふつうの人」という表現や同性愛を「禁断の愛」と表現する等、異常・異質なものとして位置付けないように注意しましょう。

### 2 取材相手に以下のことを確認しましょう

- 「アウティング」<sup>※</sup>はその人の居場所を奪ってしまいプライバシーを侵害してしまう恐れがあります。アウティングを防ぐために、取材対象者がどの範囲にまでカミングアウトをしているか確認しましょう。  
※ アウティング (Outing) : 本人の性のあり方を、同意なく第三者に暴露してしまうこと。
- 掲載された情報がどのような媒体に掲載・転載されるかを伝えましょう。また、取材相手の家族や友人、仕事関係の人に知られる可能性があることを説明しておきましょう。
- 名前（匿名か実名か）、顔出しの有無など、公開可能な個人情報の範囲を確認しましょう。取材相手（や保護者）が顔や名前を出すことに同意していても、将来的に再び隠す必要があるときもあります。未成年はもちろん、就職前の学生などは将来のリスクを認識できていないとは限りません。本当に情報を公開して良いか、将来のリスクなど改めて説明した上で慎重に確認しましょう。

### 3 「性」に関する表記の仕方に注意しましょう

- 本人の性のあり方は本人しか決められません。相手の性のあり方を決めつけず、本人の表現を尊重しましょう。過去の記事に頼らず、書き方を変える場合は本人に確認をとりましょう。
- 見出しが本人の性のあり方を尊重し、適切な表現になっているか等、デジタル版や各版も含めてチェックしましょう。
- トランスジェンダーの性別に関する表記は戸籍上の性別ではなく本人の自認を尊重した上で対応しましょう。戸籍上の性別を出されたくないという方もいます。また、人称代名詞が「彼女」や「彼」、それ以外なのか等も注意し、本人に確認しましょう。



# LGBT報道ガイドライン

## 性的指向・性自認の視点から

近年、性的マイノリティについての報道が増え、差別や偏見をなくす大きな力になっています。一方で、適切でない取材や表現により、当事者が傷つけられてしまうこともあります。そのような事例に関する相談を受けてきた LGBT 法連合会は、記者や当事者の意見を参考に、報道ガイドラインを策定しました。このガイドラインが記者や当事者が相互に理解を深め、報道を通じて性の多様性が尊重される社会を実現する一助となることを願っています。

※この簡易版は「LGBT報道ガイドライン」の「取材をする／される際のチェックリスト」を抜粋しています。



## 取材を「される」際のチェックリスト（当事者向け）

### 1 取材を受ける前に以下のことについて認識しておきましょう

- 顔を公開してよいか、名前まで公開してもよいか、自身の情報について改めてどこまで公開できるのかを確認・整理しておきましょう。
- 集会、デモ、イベントなど公の場で話したことは、報道されてしまってもやむを得ない場合があります（もっとも、公の場で表現してしまったことについて報道されたくないと思った場合、記者に報道してほしくない旨を申し入れれば対応してくれる場合もあります）。
- 報道されたことによって、好意的な反応だけでなく、ネガティブな反応が出てくることを想定しておきましょう。
- あなたが話したことが、あなたの身の回りの人のアウティングにならないように留意しましょう。
- あなたの性のあり方をどういう言葉で表現するか、今一度確認してみましょう。
- 話したくないことは話さなくて大丈夫です。取材を断ってもかまいません。

### 2 取材を受ける前に以下のことについて確認しておきましょう

- 公開してもよい情報の範囲、報道にあたって配慮してほしい表現・事柄等についてもしっかりと記者に伝えましょう。
- 公開される媒体は、新聞なのか、ウェブなのか、テレビなのか等、どのようなものか確認しましょう。
- 記者が取材してくる趣旨を確認しておきましょう。
- 必要があれば付き添いの人を連れて行ってよいか、記者に確認してみましょう。

### 3 記事の公開前後に以下のことを確認しておきましょう

- 報道の内容が間違っていれば訂正や修正を求めることができます。ただし、訂正や修正に応じてもらえるかはメディアによります。不安がある場合は、掲載前に発言内容や表現について、相談や確認を求めてみましょう。